

## 11月29日の講演のポイント

### 石井会長

1. 「石油ピーク」は「食料ピーク」、そして「文明ピーク」でもある。その対応にはエントロピーの法則を理解し、合理的な施策が欠かせない。エントロピーは常に増大する。拡散、劣化、非秩序化に向うものだが、その逆は必ず質の良いエネルギーが欠かせない。しかしエントロピーでは難解である、そこでEPR、「もったいない」で啓蒙している。
2. EPR、もったいない学会にメディアが関心を持ち、代表的な新聞、メディアなどが自宅までインタビューにくるようになった。
3. 日本工学アカデミー・「科学技術戦略フォーラム」は日本の為政者、識者などに繰り返し問題提起をしてきた。小泉元首相も、世界のトップに先駆けて「脱石油戦略」をと述べ、「もったいない」、「志が大切」と強調するようになった。
4. 富山市の新型路面電車LRTなど、良好な取り組みが始まった。「やるべきこと」はもう解っている、脱浪費、無駄をしないこと、「こうやればいい、知っていることからやる」で、危機を和らげることができる

### ASPO会長

1. 様々なデータを通して、今後石油の供給が減少することを示す。数年で世界はそれに気がつくだろう。
2. 石油会社は、深海油田とオイルサンドがあるというが、深海油田はヒマラヤと同じ距離の深さであり、取り出すために多くの石油がいる。
3. スエーデンでは、2020年までに何をすべきか提言する委員会を立ち上げた。
4. 手遅れになってからでは遅い、今から対策をとるべき。

### ASPO オーストラリアの代表

1. オーストラリアは、都市部、地方、遠隔地の3つで構成され、石油は80%が輸送に使われている。
2. 穀物や資材の輸送は、自動車と飛行機であり、公共交通機関が発達していない。
3. ガソリンが例えば、10ドル/リットルにあがれば、都市域の郊外は価値がなくなり、ゴーストタウン化する。
4. オーストラリア連邦政府はオイルピークへの備えを行っていないが、一部の政治家は動き出す。「ピークがきてからでは、対策費用は天文学的になる。たとえ早すぎても迎撃態勢をとる方が、はるかに安価である。」